

平成 23 年 3 月 31 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19720187

研究課題名 (和文) 近代東北アジアにおける中国系移民の受容と排除

研究課題名 (英文) Acceptance and Exclusion of Chinese Immigrant in Modern Northeast Asia

研究代表者

上田 貴子 (UEDA TAKAKO)

近畿大学・文芸学部・准教授

研究者番号：00411653

研究成果の概要 (和文)：1860 年の北京条約締結後のロシアによるウラジオストクの建設、中国北部の 3 港開港、日本の開港は中国系移民に東北アジアへの門戸を開いた。研究にあたり、移民の社会、移民受け入れ社会、特に奉天における慈善団などの組織に注目し、中国系移民の移民先での受容と排除について検討した。

この研究を通じて明らかになったことは以下の通りである。同郷人紐帯が強い集団はその中に互助機能があり、国際環境や経済環境が悪化しても一定程度の資本規模を維持した経済活動を行った。東北アジアにおけるこのような集団が山東幫である。これに対してそのような集団に属さない移民は、社会的弱者の立場におかれる。

研究成果の概要 (英文)：After the conclusion of the Treaty of Beijing in 1860, the Russian establishment of the city of Vladivostok, the opening of three North China treaty ports, and the opening of Japanese treaty ports opened the gates for Chinese migration to Northeast Asia. In this study, I observed acceptance and exclusion of Chinese immigrant. I focused on Chinese immigrant communities and organizations such as charity in host society in Mukden.

Through this study, the following results were obtained: People born in the same area had lasting bonds, and helped each other, so they were able to maintain their businesses through economic depressions and unstable international circumstances. Shandong-bang was one such group in Northeast Asia. On the other hand, people who didn't have such tight knit communities became more socially vulnerable.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,400,000	0	1,400,000
2008 年度	600,000	180,000	780,000
2009 年度	600,000	180,000	780,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	3,200,000	540,000	3,740,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：中国史・移民史・東北アジア史・地域交流史

1. 研究開始当初の背景

東南アジアにおける中国系移民の活動が東南アジアの社会・経済のまとまりの形成において大きな役割を果たしたことが評価されているのに対して、東北アジアでは中国系移民の存在は注目されてこなかった。しかし、中国東北地域が現在のような漢人文化をスタンダードとする形を形成する上では、漢人を中心とした中国系移民の存在は大きな意味をもつ。またこのほかにも 19 世紀後半から 20 世紀前半にかけて、極東ロシア、中国東北地域、朝鮮半島は、中国人、朝鮮人、ロシア人、日本人の人口流動にさらされた。東北アジアにおける近代とは、このような諸民族の移動が活発化しそのネットワークによって緊密な地域間関係が形成された時代といえる。現在のグローバリゼーションを支える要素の淵源はこれら諸民族の移民に発するものも多い。

これまでは科学研究費補助金学術振興会特別研究員奨励費（平成 15-16 年度）による研究「20 世紀前半東北アジア華人ネットワークの生成と衰退：国際都市と在外華商の機能」などによって、東北アジアにおける中国系移民のネットワークの結節点である都市をとりあげ、中国系商人の役割を明らかにし、分析してきた。それによれば東北アジア域内の活動が活性化する時期には、ネットワークの存在が不可欠であること、戦後いったん衰退したネットワークが近年のグローバリゼーションのなかで再生しつつあるという認識を得た。本研究はこれらの知見をふまえて実施した。

2. 研究の目的

中国系移民を東北アジアの地域間関係を支えた移民の一つと位置づけ、中国系移民の移動先での受容および排除を明らかにする。

これによって地域間連携に中国系移民が果たした役割を検討する。また彼らの存在を通じて、東北アジアにおける中国の社会的経済的影響力を測る。

国際環境の変化にともなって移民の立場がどのように変化し、それにどのように対応したかについても明らかにする。

これらの考察を通じて、時代にかかわらず流動性の高い社会において、民間でどのようなとりくみによって、社会の安定、移動の安定が確保されるのかについて知見をえよう

とするものである。

3. 研究の方法

- (1) 移民が流入した都市の地図を分析し、都市の拡大と移民の定着を分析した。主として、国際日本文化研究センター、岐阜県図書館、両機関が所蔵する奉天の地図を使用した。また、これらの地図で得た知見をもとに、現在の瀋陽市内をフィールドワークし、地図に記載された情報と照らし合わせた。
- (2) 流入した移民の救済施設である奉天の同善堂の公文書から移民の受け入れおよび救済について分析した。主たる資料は中国遼寧省档案馆所蔵の奉天省公署档案にふくまれる同善堂から奉天省公署への公文書、国会図書館、東洋文庫所蔵の『奉天同善堂辦過事實報告書』である。これらの資料には同善堂に入所した移民が奉天に至る経緯を記載した調書があり、これをもとに、同善堂を受け皿とする移民を分析した。
- (3) 戦前に日本にきた中国系移民のうち東北アジアを活動範囲とした山東幫の戦後の足跡について聞き取り調査を行い、分析した。調査にあたっては山東同郷会からのご助力を得た。またこの背景の分析に必要な戦後の日中関係および、国交正常化以前の日中の貿易について国際貿易促進協会や日中友好協会、華僑総会などの活動についても聞き取り調査を行った。
- (4) 移民送出地である山東においてフィールドワークを行い、現地の移民観・出稼ぎ観について調査、分析を行った。煙台市からは多くの商業移民が極東ロシアや中国東北、日本に出ており、移民経験者、地方史家の方々からお話をうかがった。この際、山東省竜口市博物館を受け入れ先とし、協力を得た。

4. 研究成果

- (1) 東北アジアにおける中国系移民として大きな勢力を持つ山東幫は雑貨輸入に携わり、都市においても貿易商として一定の地位を築き、中国東北地域の奉天の繁華街を形成する商店を経営した。かれらは奉天において当時においては高層ともいえる店舗を建設した。これらの建築物については現在も一部保存されている。本研究では、上記知見を実態をふまえて把

握ることができた。現在、中国においては、東北地域の歴史は張作霖や「満洲国」、抗日というキーワードで整理されがちではあるが、今後は、建築物の保存などがされるようになり、社会にも焦点をあてた地域に生きた人の歴史も書かれていかれると期待できる。今回の研究での地図から都市の歴史をほりおこす作業の成果も、このような地域の歴史に今後つなげていきたい。

- (2) 山東幫や河北幫は同郷会や会館という同郷人の集まる施設をもっていた。商店で働く出稼ぎは同郷人の紹介を介して仕事を見つけた。また、そのようなつてのない移民に対しては同郷会や会館が救済を行った。しかし、彼らとは出身を異にする移民や、紹介者を介さないで故郷を離れた者はこのようなセーフティネットを持たない。これに対して、奉天の名望家の出資により生まれ、省政府の援助も受けて運営された同善堂は都市における社会的弱者の救済施設として機能した。このため同善堂では、同郷ネットワークから漏れる移民の救済も行った。特に家庭の事情から生地を離れた女性などは、このような慈善施設に救済された。これらの慈善施設についての考察や従来女性の移民についてはほとんどとりあげられてこなかった。本研究はこの点を深め、奉天同善堂を対象として女性の移動については今後も詳細を検討していく。
- (3) 戦前に来日した山東人貿易商は、大阪の川口・本田にあった客棧を拠点に大阪の工業製品を華北や東北に輸出した。戦後に日中貿易が縮小すると、これらの貿易商がちゆかなくなった。この時期、大阪・神戸では、客棧でのまかない担当としてとして働いていたものや、宴会料理を出していた中華料理店のコックたちを表にたてたレストラン業がのびていった。ここでは貿易商たちが料理店での経理を担うようになった。このように、戦後の国際貿易の変化にともなった、同郷人なかで業種の再編を行い現在に至っている。この点は、戦後の日本華僑史においても空白だった部分であり、当時を知る人も高齢化しているので、緊急に深めていく必要がある課題である。
- (4) 山東省のうちでも山東北岸からは商業移民が多くでた。彼らの間では、12・3歳になれば、東北の商店で見習いとして働きにでることが、理想的なキャリアとみなされていた。このため、親戚の年長者に連れられて奉天や哈爾濱の商店に出稼ぎに出るものが多い。この間の農地は、さらに奥地の農村からの出稼ぎや残った老人・婦人によって耕作がおこなわれた。

また、成功者についての情報は後続の移民に伝えられ、成功者は同郷人を助ける責任をもったため、出稼ぎにでる上での安全が確保された。鉄道が敷設され20世紀になってはじめて出稼ぎを出すようになった地域では、移民がモノ扱いされ、移動の安全保障が不十分であった。しかし、1940年代には日本本部や「満洲国」での労働不足から、鉄道沿線や内陸部から半ば強制的に出稼ぎが集められるようになった。半島部においては、これに対して、このようなケースはほとんどみられない。この点は、従来は「苦力」としてひとくりにされていた華北からの移民であったが、そこに質的な違いがあることを明らかにした点で画期的である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① 上田貴子、20世紀の東北アジアにおける人口移動と「華」、中国研究月報、査読有、756号、2011、pp. 29-41

[学会発表] (計7件)

- ① 上田貴子、1920年代東北アジアにおける人口移動～奉天同善堂に集まる女性を中心に～、日本華僑華人学会大会、2010年11月14日、横浜山手中華学校
- ② 上田貴子、僑民から居民へーハルビンにおける中国系移民、日本華僑華人学会大会、2009年11月14日、大阪大学中ノ島センター
- ③ 上田貴子、「満洲」の中国化—19世紀後半から20世紀前半期の奉天地域アイデンティティの形成、東アジア歴史研究者フォーラム、2009年11月7日、韓国 ソウル グランドヒルトン
- ④ 上田貴子、移民の成功戦略——東北アジアにおける中国人移民と日本人移民の比較から、日本移民学会ワークショップ「アジア移民研究の現在・課題・方法——『移民・移動研究』への比較と交差」、2009年9月12日、神戸中華会館
- ⑤ 上田貴子、東北アジアにおける中国人移動の変遷 1860-1945、現代「中国」の社会変容と東アジアの新環境 第三回国際シンポジウム、2009年8月26日、JICA 大阪国際センター
- ⑥ 上田貴子、商工業者からみる哈爾濱の中国人社会、研究セミナー「ハルビン—異種混交の街」、2008年7月12日、東京外国語大学
- ⑦ 上田貴子、關於山東移民送出的変遷、現代中国社会變動與東亞新格局、2007年8月27日、中国 南開大学

〔図書〕（計4件）

- ① 東北亜歴史財団（韓国）、歴史的視点からみた東アジアのアイデンティティと多様性、東北亜歴史財団（韓国）、2010、364（執筆 347-364 頁）
- ② 安富歩・深尾葉子編、「満洲」の成立、名古屋大学出版会、2009、576（執筆 365-416 頁）
- ③ 蘭信三編、日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学、不二出版、2008、857（執筆 201-216 頁, 313-342 頁）
- ④ 西村成雄・田中仁編、中華民国の制度変容と東アジア地域秩序、汲古書院、2007、295（執筆 87-109 頁）

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

上田 貴子 (UEDA TAKAKO)
近畿大学・文芸学部・准教授
研究者番号：00411653

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者